



デジモンテイマーズ

第51話〔最終回〕

夢見る力こそ 僕たちの未来

The Biggest Dreamer

第二稿

脚本／小中千昭

Animation Play by Chiaki J. Konaka

2001／12／05

サブタイトル

カーネル・スフィア内

樹莉とクルモンを囲むケーブル群から、低温の青い炎が上がっている。

樹莉「く、クルモン！ こっち来て！」

飛びつくクルモンを抱きしめる樹莉、強い顔に。

樹莉「あたし、いつまでも泣いてなんかいたくない！」

クルモン「（不安）どうするんでーすかクル？」

光が戻っているDアークをぎゅっと握る樹莉。

デュークモン内

タカト「——加藤さん！ 待ってて！ もうすぐ迎えに行く！」

インフェルノ

全高七百m、マザー・デ・リーパーの頂目掛け——

デュークモン「（振り向き）頼んだぞ！ セントガルゴモン、サ

クヤモン、ジャステイモン！」

赤い荒野に立ち肩で息をしているセントガルゴモン。

セントガルゴモン「おっおーっ！（雄叫び）」

セントガルゴモン、三回目の全門開放！

セントガルゴモン内

ジェン「大丈夫か？ セントガルゴモン！」

セントガルゴモン「（オフ）だ、大丈夫、だけど……、もうすぐ

撃てる弾がなくなっちゃう……」

ジェン「（苦渋）くっ……」

カーネル・スフィア内

樹莉、両手で持ったDアークを壁面に向ける。

樹莉「レオモン——、あたし——」

Dアークが眩い光を放ち——、カーネル・スフィア壁面を照射！ 当たった部位、淡く光る。

樹莉「あたしの運命は——、あたしが決める！」

インフェルノ

おおおおおんんんん——リーパーの咆哮。

セントガルゴモンは全てを撃ち尽くした。肩のジャイアント・ミサイル・ランチャーは空疎な筒。

遼「サクヤモン、君の曼陀羅、君の力の全てをジャステイモンのカッター・エッジにぶつけてくれ」

サクヤモン「！ 何を莫迦な事を！ そんな事をしたら——」

留姫と遼

留姫「あんたたちの体がどうなっちゃうと思ってんのよ！」

遼「（ニヤ）金剛界曼陀羅だけでは拡散してしまう！ ジャステイモンのカッターにそのパワー全てを込めれば、奴をぶち切れる！」

留姫「だから！あんた達が危ないって言うてんのよ！！」

遼「——それが、俺たちに残された手だ。頼む、留姫」

ジャステイモン「俺はその程度で倒れる程ヤワじゃないぜ！」

留姫「——遼……。一番無茶すんの、やっぱあんたじゃない」

遼「——ありがとう」

留姫、涙を必死に堪え唇を噛む。
サクヤモン「（オフ）いいの？ 留姫……」
留姫「あたしたちは勝つ為にここにいる！ 遼とジャステイモンをあたしは信じる！」

インフェルノ

虚空に跳躍するジャステイモン！

サクヤモン、錫杖を振り――

サクヤモン「金剛界曼陀羅アアアツツッ！！！」

ゴオオオオオオオ！ 紫の力の場が現れ、それはジャステイモンのカッターハンドに向かって凝集！
バリバリバリバリ！

凄まじいパワーがジャステイモンに伝わっていく！

ジャステイモン「ぐっ！ わああああああっ！」

遼 「あああああああっ！！（苦痛）」

慄然とそれを見つめるジェン、セントガルゴモン。

ジェン「ジャステイモン！」

デュークモン「（下を見て）それがお前の戦いか。絶対に勝て！
と！ 突如デュークモン切り裂く者！

デュークモン内

タカト、迫ってくる者を見て――

タカト「くっそおおお！ どうしても邪魔する気だな」

ドッグファイト！（後のジャステイモン戦と適宜カットバック）

ADR-06「Horn Strike」四体が、フォーメーション・

アタックでデュークモンを攻撃！ 強靱なる爪がデ

ュークモンのボディに傷をつけていく！

デュークモン「ぐっ、ぐはっ――」

デュークモン対ADR-06、壮烈なドッグファイト！

デュークモン、徐々に態勢を立て直し、一体つつ倒
していくが、マザーからやや離脱。

サクヤモン内

ティマーボールのグライド（帯）が急速回転。

留 姫「（苦痛に堪え）サクヤモオオオン！」

インフェルノ

サクヤモン「おおおおおおおおおっ！！」

サクヤモンの肩、胸部装甲、手袋が砕け、縛っていた長い銀髪が解けて激しく揺らぎ――、全てのパワーを放出！ 虚空にくったりとなるサクヤモン。

そのパワーを得たジャステイモン、カッターハンドを垂直に突き出すや、それは数千倍もの光の刃に。

ジャステイモン「確かに貰ったサクヤモンのカアアアアッ！！」

リーパーの前に飛翔するジャステイモン！

しかし！ 巨大な鎌2本再び突出！、襲い来る！

セントガルゴモン内

ジェン「（太極拳の構え）ハッ！ ハハッ！ ハアアアアッ！」

インフェルノ

セントガルゴモン、一本の鎌を踏み台に跳躍し――

セントガルゴモン「破アアッ！」

もう一本の鎌を旋回腿で破碎！

そのまま地に落ちかけるも、残ったパワー全てを使ってジェット噴射反転！

ゴオオオオオオオ！ 拳を握り、もう一本の鎌へ！

ジャステイモン「いくぜセントガルゴモンニニニニ」

垂直に上げていた巨大光刃を構えた！

セントガルゴモン「オオオオオオオツツツツニニニニ」

渾身のパワーが込められた拳が、鎌を破碎！

ズザザザザザザ！！ 無数のケープルから成るリーパー、その半分程のケープルがジャステイモンの巨大光刃に断ち切られていく！

カーネル・スフィア内

ドツツツ！ ついにDアークの光が壁面を破った！
クルモン「やったクル〜〜！」

樹 莉「（ニコツ）レオモンが助けてくれ——（ハツ）」
赤黒い粘液（液体に近いメタン状流動体・リーパー）が室内に流れ込んでくる！

インフェルノ

全てのADR-06を叩き落とし——

デュークモン「タカトもつすぐだ！ もうすぐ樹莉のところだ！」
タカト「！ 割れている！ かつ、加藤さんが——」

カーネル・スフィア内

どんどん室内に溜まっていく赤黒い粘液。
クルモンを抱き樹莉、必死にケーブルを伝って逃れようとするが——

樹 莉「こ、こんな事になるなんて……！」
恐怖におののく樹莉の瞳——、その中に灯る黒い炎。
フラッシュ／ニツ、と笑みを浮かべるADR-01の口。

インフェルノ

タカト「加藤さああああん！」

ゴオオオオオ！ 急速上昇するデュークモン。
と！ その眼前に急速凝集していく者——！

デュークモン「！ お前は！」
それは——、ADR-01。しかしその顔はリーパーの如く空疎で、巨大な口蓋だけがニタニタと笑っている。
ガツッ！ 口から放たれる 崩壊弾！

デュークモン「がアアアッ！」
防ごうとした楯、破碎！ 続けて槍も失う！
ADR-01、両腕を異様に伸ばし抑えつけた！

その向こう——。細長い形状となったリーパー、頭部を振り回し、再び活性化！

遼 「くそっ！　なんてしぶとい！」

ジャステイモンの光刃、消失。

ADR-01「（樹莉の声）人もデジモンも予め居てはならない存在」
デュークモン「それを決める者はお前ではない！」

デュークモン内

タカト「人間だって動物だって植物だって、それにデジモンだって、みんな命を持って生まれたら、それを守るんだ！
だって、とつても大切なものだから！」

タカトの気迫——、それがデュークモンに伝わる！

インフェルノ

自らを掴む腕を払いADR-01に向かって突進！
デュークモン「だああああああああっつつつつ！！！」

セントガルゴモン「あっ！！！」

虚空から巨大孔見下ろしているセントガルゴモン、
孔の奥の闇から二つの巨大な者を見て驚く！

ジェン「あれは……！（慄然）」

グオオオオオオオオ！　ガオオオオオオオオ！
スーツエーモンとバイフーモンが咆哮を上げつつ巨大孔の闇より現れ、リーパーを奈落へ引きずり落とす！
していく！

断末魔をあげつつ、消えていくリーパー。

筑波研究所

恵 「トランスフォティック・エディ内、巨大異分子消滅！」

山木「よし！ シャツガイを再起動しろ！」

麗花「了解！ シャツガイ・カーネル、ブーツ！」

モニタに浮かぶブーツ画面（前話参照）。

ドルフィン「——タオ……、いいな？」

鎮宇「（険しい顔で頷く）」

SHIBUMI「（室内の者に）みんな、覚悟してくれよ」

SHIBUMI、隅の自分の卓でキー操作。

ブン！ 突如重くなる空気。室内が赤黒くなり——

カーネル・スフィア内

顔が赤黒い粘液に埋まりつつある——。

樹莉「タ……カト……くん……」

インフェルノ

人の形をした、デジモンとデ・リーパー。超人同士の空中戦！

俊敏さで勝るAD-R-01、デュークモンのパワーをかわし、口から崩壊弾を吐いて墮そうとする！

しかしひるまないデュークモン！ 拳、そしてキックでAD-R-01を痛打！

筑波研究所

ドアの隙間から覗いている小春、目を丸くしている。

小春「ふああ……。すごいねロップモン……。あれ？」

ロップモン、側にいなくなっている。

室内が、ミニチュアライズされたデ・リーパー・ゾーン内となっていた。中央には、超光速渦筒の黒い孔。その上空に力無く浮いているセントガルゴモン。

鎮宇「——ジェンリヤ、テリアモン、聞こえるかね？」

セントガルゴモン内

ジェン「お父さん」

ヴィジョン越しに、ぼやけた鎮宇らの姿が見える。

鎮宇「私はテリアモンにあるプログラムをロードした」

ジェン「えっ」

フラッシュノ49話

検査台上のテリアモン「なんだか耳がかゆいよう」

セントガルゴモン内

ジェン「あの時……」

セントガルゴモン「(オフ)ぼくに何ロードしたのお？」

鎮宇「すまないね黙っていて。山木君のシャツガイだよ」

ジェン「シャツガイ……(ハッ)」

フラッシュノ23、24話

空に緑色のグリッド、渦が巻き、デジモン達を巻き込んでいく。

筑波研究所/仮想デ・リーパー・ゾーン

ジェン「あっ、あれをテリアモンに…… どうして」

山木「デジタル・ワールドとリアル・ワールド相互に干渉し、

超小型量子ビッグバンを起こしてブラックホールに人工知性を引き込む、それがシャツガイだった」

ジェン「そ、そんなものを何で」

ドルフィン「今君の下にある、地上とデジタル・ワールドを繋ぐ

筒、それは光を超える速度で回転をし、デ・リーパーを急速進化させた。それを、君たちの力で逆の回転をさせ、デ・リーパーを元のプログラムに退化させる為だよ」

ジェン「——そうか……！　すごい！　お父さんたちは凄い！」
鎮　宇「——（沈痛に俯く）」
山　木「シャツガイは修正した。君たちを傷つける事は無い」
セントガルゴモン「だけど、どうやったら……」
ジェン「セントガルゴモン、飛行モードになるんだ！」
インフェルノ

セントガルゴモン、耳が翼状に伸びる。
セントガルゴモン「耳が伸びたよー」
ジェン「（オフ）行くよ！　僕たちがやらなきゃいけないんだ！」
巨大孔の中央に降りていくセントガルゴモン。
それを、憔悴しきった姿で見つめるジャスティモン
とサクヤモン——。

サクヤモン「（マザーの遥か上空を見上げ）デュークモン……」
ドオオオンン！　ADR-01の伸びた腕で引き回され、
マザーの壁面に激突させられるデュークモン。
デュークモン「くっ……そおおお！」
態勢を立て直し——

タカト「——僕達は——」
デュークモン、渾身の力を込め——
タカト「——絶対に——」
拳を振り上げ——

タカト「いなくていい存在なんかじゃ——」
ドガツツツ！　ADR-01の顔面を撃破……！！
タカト「ないっつっつ——」
ADR-01「ギャアアアアアアアアアア……！！」
頭部が割れ、自ら　崩壊するADR-01！

筑波研究所／仮想デ・リーパー・ゾーン

ドルフィン「回転が始まった！」
ヴィジョンの超光速渦筒内にて、徐々に回転速度を

しきれなかった……」

鎮 宇「（掴みかからんばかりに）なっ、何が起こる……」
SHIBUMI「——予想よりも早い……デジモン達の……」

鎮 宇「子どもたちが……！（慄然）」

ジャステイモン内

ジャステイモン「遼、何かおかしい！」

遼 「！これは……」

ティマー・ボールのグライドが消えていく！

サクヤモン内

サクヤモン「留姫、ごめんなさい！ 私にはどうにも出来ない！」
留 姫「どうなっっちゃうの？」

インフェルノ

樹莉まであと少しのところ——、デュークモン、
止まる！

デュークモン内

タカト「どっ、どうしたのさデュークモン……」

デュークモン「タカト——、もうこの姿、保てない……」

タカト「そっ、そんな……」

デュークモン「タカト、樹莉を——早く……」

やはりグライドが消えていく！

タカト「デュークモン！ ギルモン……」
タカトの視界、ヴィジョンではなく直接のそれに——

インフェルノ

デュークモンの姿、光に包まれ——ギルモンへ。

虚空に飛び出すタカト、苦しいが――

タカト「ギ、ギルモン!!」

ギルモン「タカト!!」

ギルモン、体を反転させ、尻尾をタカトの前に。

タカト「!――判った!」

タカト、ギルモンの尾を両手で握る。

ギルモン「でええええいつ!」

思いつきり体を振り回し――、タカトを上空へ!

泡の頂点近くに漂う樹莉――。

サイバードラモン、レナモン、それぞれのティマーを抱き――

レナモン「早くここから出なくては留姫達が――」

サイバードラモン「ああ! だがあいつらが未だ!」

旋回している光――、と――、ジェンが分離して漂いだす。

留 姫「(苦しい)レナモン……、ジェンを……」

レナモン「判った!」

レナモン、ジェンを救いに飛ぶ。

ジェン「――テリアモン……」

ゴオオオオオオオオオオツツ!

超光速渦筒の中の、小さな小さな光――。

タカト「僕だよ! 来たんだ迎えに!!」

と、クルモンが気づく。

クルモン「! タカト……、ジューリ! ジューリ!」

タカト、両手を開いて――、樹莉を抱く!

タカト「樹莉! しっかりして! 目を目を開いて!!」

樹 莉「……タカト、君……?」

タカト「うん……(未だ樹莉の表情が不明瞭故に不安)」

樹 莉「……(微笑)会いたかった……、とつても!」

タカト「――(涙が浮かぶ)僕だつて!」

樹莉、思わずタカトにしがみつく。微笑むタカト。
ゆっくりと落ちていく二人。

ギルモン、泳ぐ様に近づき

ギルモン「樹莉〜、クルモン〜」

クルモン、嬉しそうにギルモンの頭に乗る。

クルモン「ギルモン〜」

タカト「（見下ろす）みんな、分離しちゃってる……。どうやってここから出たらいんだらう……」

と——、遠くから声。

ケンタ「（オフ）おーい！ みんなああ（緊張感の無い声）」
タカト「！」

留姫と遼、ジエンも見上げる。

留姫「——（嬉しい）あなたたち……」

上空から降下してくる、オーシャン・ラブのシールドに包まれ、ガードロモンに乗ったヒロカズとケンタ、そしてロップモン達が来る。

ヒロカズ「助けに来てやったぜ！ 俺様達がよあ！」

ケンタ「マリン・エンジェモン、がんばれ！」

マリン・エンジェモン「（オーシャン・ラブを放ちながら）ぷー

びーぷー（ちつとも辛そうじゃない）」

ガードロモン「テリアモンはどこだあ？」

超光速渦筒の中心、徐々に回転を緩め、グロツキーナテリアモンの姿が現れる。

ジエン「テリアモオオオン！ 大丈夫かー！ ツツ」

テリアモン「も、も〜まんたい〜」

樹莉を抱きながら、タカトもそこへ降下していく。

樹莉「——みんな、一緒だね……」

タカト「——うん……、みんな一緒さ、ずっと。ね、ギルモン」
ギルモン「うん！」

三軒茶屋近辺

玉川通り首都高架下。デ・リーパー・ゾーンが急速

に後退していく。引いた後は、元のままの町並み。

衛星高度

凝集していくデ・リーパー・ゾーン――。

山木「(モノ/回顧調)あれが本当にただのプログラムだったのか。それともネットワークの奥底で、何か他の――、別の世界と繋がった存在だったのか、今の我々では知る事は出来ない。――今は、だが……」

イメージ――グリッドを埋めつくしていた赤黒い点の集合＝リーパー・プログラムが小さな点に凝集。

新宿中央公園/朝焼け

タカト達、そしてギルモン達がいる。

デ・リーパー既に全て消え、都庁を中心にゾーンが直径30mにまで縮小した超高速渦筒を包んでいる。

留 姫「――終わったんだよね、これで……」

ギルモン「タカト、やったね！」

タカト「うん！(樹莉を見る)」

微笑み返していた樹莉、ハツとなる。

タカトの向こう、やや離れたところに立ち、樹莉を正視出来ずに斜に立っているインプモン。

レナモン「インプモン！ 無事だったか」

インプモン「(レナモンに)へへ。俺にもよ、タイマーがいたぜ」

レナモン「……そうか……」

じつとインプモンを見つめている樹莉。

インプモン「――(言い淀む)俺……、俺――」

樹 莉「――良かった……」

インプモン「へ……」

樹 莉「もう、誰も一人だって、いなくなつて欲しくなかった」
インプモン「――俺を――、許すつてのか……？(目が潤む)」

微笑んでいる樹莉。

マリンエンジェモン「ぷぷっ、ぴーぴ」

ヒロカズ「ん？ なんだって？」

ケンタ「なんか、変なんだ……」

レナモン「留姫……」

留 姫「どうしたの？ レナモ——（ハッ）」

レナモンの体、縮小していく。

ギルモン「タカトオ……」

ギルモンも——。

テリアモン「ジエン……」

ジエン「テリアモン……」

デジモン達、幼年期に退化していく！

タカト「ギッ、ギルモンどうしちゃったの……」

ギギモン「わかんない……」

クルモン「くるる……？（そのままの姿で縮小）」

と、向こうから小春が駆けてくる。

小 春「ジエン兄ちゃん！ ロップモーン！ テリアモーン！」

振り向くジエン。

小春の後から来る鎮宇。

ジエン「おとうさん！」

しかし——、鎮宇は固い顔でいる。

ジエン「（当惑）——」

ギギモン、ポコモン、グミモン、チヨコモン、カブリモン達はまだ、変化を止めようとしていない。

小 春「（しゃがんで）あれれ……？ どうしてこんなにちっちゃくなっちゃったの？」

タカト「これどういう事なの…… どうして、どうしてギルモン達は退化しちゃったの？」

ジエン「退化……（ハッ）——おとうさん…… これって——」

鎮 宇「——私たちの計画は成功した……。リアル・ワールドとデジタル・ワールドの境界は再び強固なものとなった」

遼 「——じゃあ……、デジモン達は……」

鎮 宇「彼らの世界に帰らなくてはならない。このままここにいたら、デ・リーパーの様にプログラムとなってしまう」

タカト「そっ、そんなのヤだよ！ 僕は約束したんだ！ ギルモンとずっとずっとこれからも一緒だって……！」

留 姫「（嫌だと首を振り）あたし、そんなの絶対認めない」

ジエン「（拳を握りしめ）お——、お父さんはこうなるって判ってテリアモンをこ」

鎮 宇「——本当にすまない。償いきれない事をした。しかし、これが世界を守る唯一の方法だった」

ジエン「（う、嘘だ！ そんな事信じたくない！）」

ポコモンを抱きしめる留姫。

留 姫「ヤダ！ 絶対ヤダ！ 離れたくない！」

ポコモン「ルキ、アタシタチ、キットマタアエル」

留 姫「（泣き叫ぶ）またっていつよ！ いつなのよ！！」

タカト「……ギルモン……」

ギギモン「ゼツタイマタイッショニアソボウネ！ タカト！」

タカト「（涙を零しながら、笑み）……うん……」

しかし笑みを維持出来ず、目をギュツと閉じて、ポロボロと涙を零すタカト。

グミモン「モーマンタイ」

ジエン「（泣いている）——テリアモン……」

ゾーンに向かっていくデジモン達。

手を振っているヒロカズとケンタ。

タカト「——（涙を拭い、精一杯元気な声で）絶対だぞギルモオ

オオオン！ 絶対絶対約束だぞーッッッ！」

留 姫「絶対——、きつとだからねっ……」

ジエン「——（呟く）絶対……。そう……。絶対また……」

脚にしがみついてベソをかいている小春の頭を撫でながら、鎮宇は沈痛にテイマーの背を見つめている。と——、顔を歪めたジエンが振り向いた。

鎮 宇「——（覚悟をしている）」

ジエン、懸命に笑顔を作って、首を横に降った。

鎮 宇「ジエンリヤ……！」

彼の息子は、父を許した。その事が鎮宇の感情を解き放った。声を上げて泣き崩れる鎮宇。

小 春「（驚いて）お父さん！ お父さん！」

ゾーンの中に消えていくデジモン。
姿が見えなくなっても、見送り続けているティマー。
そして――、ゾーンもまた、消えていく……。

西新宿俯瞰

以前と全く変わりない景觀が戻っている――。
そして、人々の生活も――。
人々の記憶も――。

まつだベーカリー

タカト「(オフ)おはようっ!」

同/調理室

剛 弘「おおタカト、おはよ……」

駆け降りてきたタカト、店のパンをポケットに次々
ねじ込んで飛び出していく。

タカト「ふがふがぶかーっ(行ってきまーす)」
美 枝「こらっ! もっと早く起きてちゃんと食べてきなさい!」

恐竜公園

タカト「おはようっ!」

時計台下では、ヒロカズ、ケンタ、泰三らが、美紀
と樹莉のカード・バトルを覗き込んでいた。

ケンタ「おータカトおせーじゃん」
ヒロカズ「あっ、バカっ! 加藤そんなカードそこで使うなっ」
樹 莉「うるさいなっ! ちよつと黙ってて! タカト君おはよ」
タカト「……うん、おはよう(微笑)」

サイレント処理
でも結構です。

淀橋小学校/教室

真剣に、生徒に伝えようと授業をしている奈美。タカト、真面目に聞いていたが――、ふと目を、落書きをして無いノートに落とす……。と、視線を感じた。

樹莉、手の形で、「わん、元気だして！」

タカト「……………（微笑）」

顔をこちらに向け、微笑む樹莉。

新宿中央公園 / 放課後

タカト、ギルモンホームだったところを見る。しばらく見ていたが、寂しげに歩きだすタカト。と、その上空高く、デジノームが旋回して飛び去る。

十二社通り

タカト、ふと治水トンネル工事現場が気になって、柵を抜けて中へ――。

工事現場

中に入ってきたタカト。薄暗い、休止中の工事現場を見回す。特に変わったところも――キラキラと輝くイメエジ――。はっ、となつて、下の方を見回すタカト。それは――、直径50センチ程の、『ゾーン』。タカト、屈み込んで、じつと、それを、見つめる。タカトの表情――、徐々に、明るくなって――新たななる、冒険の予感。

デジモンテイマーズ 完